

# 鳥見の記 散策の発見

第8回 みずき野の秋 本番で…

2018.10



西大木の田園の秋空に舞うトビとノスリ



夕暮れ時の杜やの西大木の田園に放牧される牛さんのいる風景

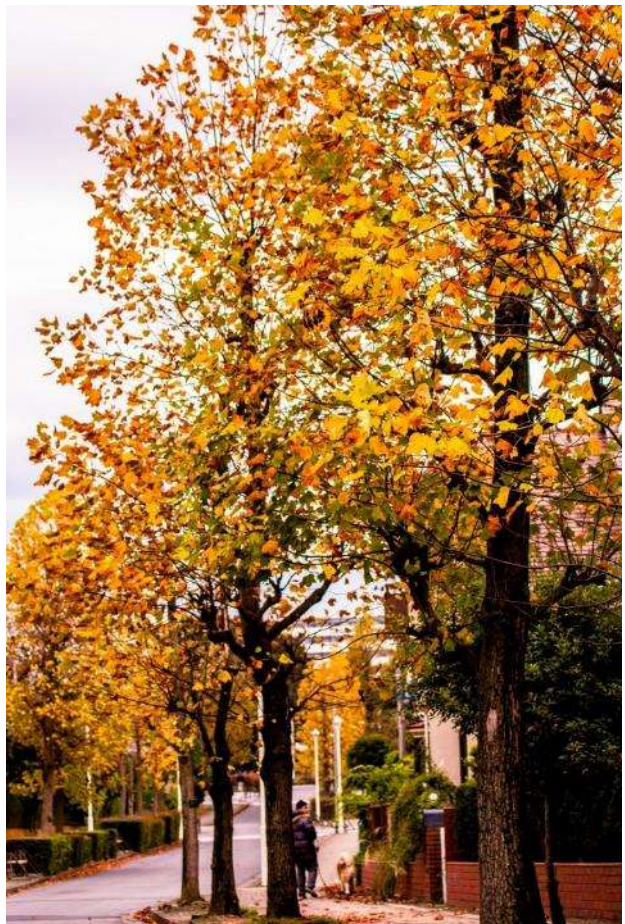
今回は、秋へのプロローグから秋本番の華やかに色づいた杜を気の向くままに散策してみました。鳥見をしていると、「秋に想い、秋の色をみつけよう！」と気負わずとも、「**みずき野には素敵な小さい秋**」がたくさんあることに気づきます。

今年は例年になく桜の葉の色づきが遅いようですが、これからは、戸頭アプローチロードやさくらの杜公園、イチョウ通りそして第2調整池の野原は、知らぬ間に日、一日と秋色に染まっています。その様を愛でる散策は、日頃煩わしい生活をしている者には、それはそれはかけがえのない喜びです。そんな散策のご参考になればと綴ってみました。

「みずき野の秋 本番で・・・」は、日頃の鳥見の散策を秋のテーマに絞った写真から選んで編集します。



イチョウ通りのイチョウ



戸頭アプローチロードのポプラ



陽だまりの枯葉の戸頭ロータリー

どこまでも青く澄んだ秋空に色とりどりのコスモスが第2調整池の堤下に咲き始めると、その花の蜜を求めて、ミツバチやチョウが飛び、舞い戯れる「小さい秋」の風景を目にします。時には、歩みを止め、腰を<sup>かが</sup>屈めて視線を低くして、

**青空を見上げるようコスモスを観てみましょう！！**



秋風にそよぐコスモス



ミツバチ



ハクセキレイ



ヒヨウモンチョウ



ヒガンバナで一休みするクロアゲハチョウ



カルガモ



スズメ



オオバン



秋の長雨で池になった第2調整池の原っぱでアオサギとカルガモが仲よく遊んでいます。



時には、冬鳥のスズガモとオオヨシガモが渡りの途中に寄ってきます。



コスモスが終わると調整池の野原は燃えるような草紅葉くさもみじの草原に変わります。



秋の取手農業公園の池にもカルガモが群れで訪れます。



取手農業公園では、シジュウカラ・エナガ・モズがさくらの杜公園より近くで見られます。  
そして時には、林縁の暗部の林で鳴くコゲラの声も聴けます。



さくらの杜公園の桜も秋の夕焼け雲と競うように紅葉します。そんな日暮れ時に寝ぐらに帰るハシブトカラスの鳴き声も、この季節は何かもの悲しく聞こえるトーンで耳に残ります。

今年はカルガモがいつになく早く第1調整池に飛来してきています。またここ1、2年でその数が20羽になるほどに増えてきました。そして、アオサギはもちろん、今年はダイサギが1羽必ずどこからかやってきて餌<sup>えさ</sup>をついばんでいます。時には、みずき野野球場の草場でミミズを食べている様子も見られます。ダイサギもきっとアオサギやカルガモと同じように調整池が安全な食事場だと覚えたのでしょう。毎年ではありませんが、第2調整池と同様に第1調整池でも冬のカモのオナガガモやオカヨシガモ、留鳥のカワウ、オオバン、カイツブリ等も見ることがあります。



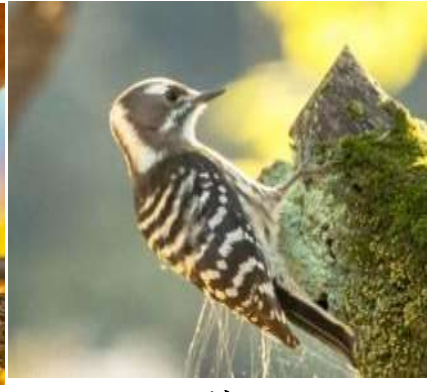
さくらの杜公園も桜の葉が枯れ落ちると同時にカエデが紅葉し、そのグラデーションは見事です。



シジュウカラ



メジロ



コゲラ



カケス



カワセミ



枝から枝に飛び回って餌えさを探すエナガ



木枯らしが吹き、霜が降り始める頃になると、さくらの杜公園入り口付近から名なし橋の左右の垣根でジョウビタキ、公園の野原にツグミ、そして公園の林縁で枯葉を嘴くちばしでひっくり返して餌えさを探すシロハラとアカハラが見られる冬の季節になります。



公園内のツタウルシの紅葉



秋の陽だまりに



園外の水路に映るカエデ

次回は、冬ならではの季節感を味わうみずき野の「散策の発見」になるように<sup>つづ</sup>綴りたい  
と思います。

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三